

平成22年度 教師海外研修報告書



独立行政法人 国際協力機構 九州国際センター

はじめに

本報告書は、平成 22 年度に JICA 九州が実施した教師海外研修プログラムについて、海外研修及び授業実践報告書をまとめたものです。

教師海外研修は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教師、及び教育委員会の指導主事等を対象に、開発途上国がおかれている現状、日本との関係や国際協力への理解を深めるとともに、次世代を担う、児童、生徒の国際理解に役立てることを目的として行われています。

平成 22 年度は、九州各地から 7 名の教員の方々が参加され、日本との歴史的、地理的な関係が深いフィリピンを題材として、「格差」をテーマに行いました。

事前研修では、フィリピン社会の概要、スラム街の子供の就業支援を行っている NGO の方の取り組み、また、日本社会における社会問題との比較を行うために、北九州市ホームレス支援機構のご協力を得て、日本における貧困問題について学びました。

フィリピン訪問時には、青年海外協力隊等の JICA 事業、及び事前研修で学習した、日本の NGO の活動現場を訪問し、現地の住民と交流を行うとともに、関係者との意見交換を行いました。

事後研修では、現地訪問で得たことを授業実践するため、国際理解教育、開発教育の手法について学びました。

ご参加された教員の方々の真摯な熱意に敬意を表するとともに、今回のご経験をさらに学校で活用され、グローバル化が進む世の中で、将来を担う子供たちの将来の糧としていただき、本報告書が教育現場で広く活用されることを心より願っております。

平成 23 年 3 月

独立行政法人国際協力機構

九州国際センター所長 村 岡 敬 一

目 次

■ 平成 22 年度 教師海外研修 研修報告

福岡市立勝馬小学校	有 馬 美 和	7
福岡市立当仁中学校	川 上 正 樹	11
福岡市立筥松小学校	小 島 夕 季	16
日之影町立八戸小学校	齊 藤 佳世子	20
大牟田市立歴木中学校	下 川 雅 史	24
北九州市立天籟寺小学校	宮 崎 聡 美	30
飯塚市立庄内中学校	山 尾 智 子	35

■ 平成 22 年度 教師海外研修 実践報告

総合的学習指導案	有 馬 美 和	41
世界の子どもの問題	川 上 正 樹	47
フィリピンを知ろう／大切なものは何ですか？ 世界で活躍する日本人	小 島 夕 季	53
フィリピンと JICA	齊 藤 佳世子	60
「貧困」と「世界でがんばる日本人」	下 川 雅 史	68
開こう！ 未来へのとびらを！	宮 崎 聡 美	90
世界を知ろう 自分を見つめよう	山 尾 智 子	98

平成 22 年度 教師海外研修 研修報告

派遣国	フィリピン
学校名	福岡市立勝馬小学校
担当教科	音楽科・全教科
氏名	有馬美和

1 今回の研修参加に際して、特に主眼をおいた点

- フィリピンの人たちの生き方
- フィリピンにおける貧困について
- JICA の支援の方向性や内容 この3点に重きをおきました。

2 視察を通して参考になったこと／疑問に思ったこと

- 生き方において、明日のことをくよくよ考えないで、今日をどのように生きるかに重きをおいて生活をしていること。すてきな生き方だと思いました。
- 家族や親戚や近所の人たちとの絆の強さ。
- 親切なおもてなしの心使い。
- 生活の水準のとらえ方が分からなくなりました。
- マニラとルセナとの生活があまりにも違って感じるように感じ、フィリピン人の中にある偏見？に気付いているのでしょうか。
- 小学校では、大変よくしていただきました。しかし、教具が足りない、教科書足りない、わかっていただけ「どうにかせんと！」と感じたが、何をしたいのか分かりませんでした。お金の解決は一時しのぎのような気がしました。

3 教育指導への活用について

- ① 世界で働く人々（JICA の事業の視点）社会科的な扱いで
- ② フィリピンの美しい人々の生き方（国際理解教育）
- ③ フィリピン社会的現状 この3点が考えられます。

4 研修に関する全般的な所感／意見について

- はじめに、このように機会を与えてくださった、JICA 関係の方々や本校の職員の方々に感謝申し上げます。私たちが安全に、そして、教職員であるために予定になかった、学校の手配なども行っていただき、本当にありがとうございました。
- わたしは、初めての国フィリピンでした。今までの先進国と言われている国とどう違うのかと、とても興味がありました。フィリピンでは、教師7人+ JICA 熊本1人+現地のアドバイザー1人

の9人での活動だったので安心して活動に参加することができました。欲をいうと参加者の女性は、偶数の方が良かったのではないかと思います。なぜかという移動の時に、完全にはずれてということではありませんが、1人になることがあったので少し、心配になりました。(参加人について)

- JICA フィリピンでの話の中に、今回のスケジュールは、「ゆっくりしていますので」ということばに驚きましたが、今回のスケジュールも少しは、つらいところもありましたが、JICA で働くたくさんの方々に出会えました。感激して帰国することができました。そして、私もシニアボランティアに行く決意が固まりチャレンジする計画を立てています。(スケジュールと私自身の展望)
- フィリピンでは、106キロを高速で走っていても、3時間から4時間かかることに驚きました。「時間の予想がこの国ではつかないんですよ。」というガイドの方の言葉が理解できました。(移動時間について)
- ホテルは、マニラではきれいなホテルでとてもうれしかったです。ルセナでは、私の部屋ではいろいろと(お湯がでない・テレビが映らない・カラオケがうるさくてなかなか眠れない・冷蔵庫がない)などありましたが、これが海外では、当たり前と聞いていたのでこの現実が私の部屋でよかったと思いつつ2日間を過ごしました。ああ、こんなことが日本と違うことも学びました。(旅行の醍醐味)
- フィリピン事業所や社会福祉施設や自動車整備トロイ財団・ソルトパヤタス・国家警察などで働く人たちの素敵な笑顔、まじめに取り組む姿は、大変素敵だったしパワーをいただきました。(生き方)

5 JICA に対する要望・提言

今回は、一週間だったので、あと2日あると日程的にもう少しゆっくり視察ができたのではないかと考えました。

1泊2日の事前研修は、時間的にも大変でしたが、大変役に立ちました。スケジュール的には受けた方も大変でしたが、計画する方はもっと大変だったと思います。ありがとうございました。

教師海外研修の企画も大変素晴らしいと思います。JICA のことがわかったので、自信をもって子どもたちに JICA のことやフィリピンの国の事やたくましく生きることを伝えていきます。

6 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・ 事前研修で研修の目的をきちんとつかんでおくことの大切さ。
- ・ 事前の体調管理の大切さ。
- ・ 英語は話せないより話せた方がよい。
- ・ デジカメでできるだけデーターとして残しておくこと。削除するのはいつでもできます。

7 各訪問先の所感

日 時	訪 問 先	所 感
7月26日 (月)	JICA フィリピン事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人づくりは、ものだけでは育たない。一人を育てても広まらない。このことから人を育てるためには、もの+人+組織を育て、そして、経済の発展を願うという組織化していくことの大切さを学びました。 ・ JICA の仕事内容は、多面的・計画的に多くの人材からなることを知りました。 ・ 政治の手の届かない所は、草の根運動で支援をし、未来の10年後を見据えた人づくりが大切です。そのためには、多くの多面的なボランティアが必要である。ということを知りました。
7月27日 (火)	・ ルセナ市役所社会福祉総合施設サリアヤ町役場アライカブワ女性農業協同組合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性が一生懸命に働く国です。 ・ ここでは、シスターが重要なポストにいて、権限をもっています。女性農業組合長であり、保育園の園長も別のシスターが行っていました。 ・ フィリピンの人の気質を表す言葉に「やしの木が3本あれば、一生安泰である」という言葉があり、ヤシからは身の回りの生活用品の全てに使い捨てるところがないことを知りました。 ・ 組合長は、ジャムの製品化を行い、女性たちに現金収入の道をつくるために、議員の寄付でジャム製作所をつくり、邁進中です。 ・ 園長先生は、シュタイナー教育を行い、子どもに行儀作法を、指導し子どもの未来を見据えた教育が行われていました。
7月28日 (水)	自動車整備トロイ財団 投資促進アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年海外協力隊員の伊藤さんに会う。トロイ財団などの寄付により、小学校から専門学校・訓練学校までである総合学校でした。伊藤さんの子どもたちに対する姿勢が素晴らしいと感じました。学校で学ぶ、子どもたちの姿勢もすばらしく、あいさつや掃除が上手であり、規律ある学習がなされていました。 ・ 経済の裏に見えるくらしや教養・くらしが見えてくるが、大きな視野が必要であると思いました。
7月29日 (木)	ソルトパヤタス視察	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ山のここに出来たわけや事故当時の様子、そして、現在のパヤタスでの暮らしを学びました。 ・ ジャンクショップに行き、スカベンジャーから買い取る仕組みについて知りました。 ・ 小学校訪問をし、算数と音楽の学習を見ました。60人学級にオルガンやCDの音源の無い音楽ははじめての経験でした。サウンドオブミュージックより「ドレミの歌」の学習でした。

日 時	訪 問 先	所 感
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭訪問では、中3年生のエルサに会う。勉強が好きで賢い子でした。 ・ パヤタスでは、支援者を募集中です。 ・ パヤタスの女性が、日本に行ったときの印象を語ってくださいました。(まじめで働きすぎだ)という印象をもたれていました。
7月30日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ マニラ市貧困における薬物依存症に対する回復支援推進事業視察 ・ フィリピン国家警察銃器対策能力向上プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬物支援センターの目指すものに、支援だけでは、人は変わらない。だから、自立していこうと自らが変わり、強い意志をもって成し遂げる必要があります。この支援センターで、中心となって活動中のレネオンさんは、15年を振り返っても、まだ、ご自身は完治していないと断言され、薬物のこわさと継続的な支援の大切さを学びました。また、支援センターでは、保育園から成人(75歳)までの活動が行われていました。 ・ 国家警察における JICA の支援を知りました。毎回感じたが、支援はお金だけではどうにもならない。また、ものだけでもいけない。人と物との組織的な支援の大切さを感じました。

派遣国	フィリピン
学校名	福岡市立当仁中学校
担当教科	社会科
氏名	川上正樹

1 今回の研修参加に際して、特に主眼をおいた点

- ・ 自分が教える教科で、南北問題や開発途上国、海外青年協力隊のことについて触れ、図や写真などを使い、現地の有様やかかわる人々の努力を伝えてきました。その経緯から、その開発途上国の現地に実際に行き、そこでの人々の生き様など五感を使い体感することを主眼におきました。

2 視察を通して参考になったこと／疑問に思ったこと

- ・ 「日本を外国からみると」…という意見を現地で活躍する多くの方からいただき、日本という国を改めて、捉え直しました。→「世界水準よりはるかに高いところに日本のレベルがあります。逆に言えば、ある意味、普通ではないという見方も必要」「経済や生活の向上という意識、豊かな国、だけど、自殺者が多いという現実」
- ・ 「貧困状態で生きる」ということ…「厳しい地域」に足を踏み入れた時、我々のインタビューにもかかわらず、仕事をする手を止めなかった小学生の子どもの姿に打たれました。涙がにじみました。明日、稼いだ金を持ち、学校に行くと答えました。
- ・ 疑問①：自分の「涙」とは？…日本の視点と現地での視点の違いをふまえた場合、自分の「涙」は日本から見たものであると思います。現地では、「働く子ども」と同じ時・空間で、学校で学ぶ子どもがいました。それらの子どもにどのように「働く子ども」が映っているのでしょうか。
- ・ 疑問②：支援の手をどこまで差し伸べるのでしょうか？
「ドネーションに慣れているから・・・」「民族の独立心・気骨と先進国からの援助との調和」

3 教育指導への活用について

- ・ なんとといっても、自分はマニラ郊外のパヤタスのゴミの山の隣でのワンシーンが強烈に残りました。そのシーンを活用できないかと考えています。
- ・ 3学期の予定である「人口・食糧問題」「世界の子どもの問題」の単元で、南北問題やストリート・チルドレンを扱っており、その際に映像も含め、活用をはかりたいと思います。
- ・ 生徒会がエコキャップ回収&ワクチン接種という取り組みを地域あげて実施中です。その中でも、開発途上国への援助の視点があるので、その学習に今回の研修内容を使えたらと思います。

4 研修に関する全般的な所感／意見について

- ・ 現地で活躍している現地の方、海外青年協力隊員、NGOの方々、各業種から派遣されている方との出会いの場を組んでもらっていたことは、生の声を聞いて有意義でした。
- ・ 現地通訳の中村さんからの情報も生活全般から政治の話まであり、通訳の方の力量でもその国のイメージが豊かになると思いました。
- ・ 教育にかける思いをスラム街で暮らす方から聞きました。今自身が生業としている教職を改めて、大切にしなければと思うと同時に、責任の重さ、目の前の子どもへのこだわりの大切さを感じました。

5 JICA に対する要望・提言

- ・ このような研修が企画されていることは、大変よいことだと思います。ただ、研修の宣伝が不十分で残念です。中規模のポスター各校1枚でもあれば…と思います。
- ・ 各学校では、開発途上国向けの募金や援助などを取り組んでいる内容があると思います。援助先を訪れるという視点での宣伝や研修の勧誘を実施してはいかがでしょうか？
- ・ 研修期間、ほぼ毎日、本日のふりかえりの時間を設定したことは、よかったですと思います。最終日の研修全体のふりかえり。その際の我々の感想に対して、現地の方からの声や意見の交流の機会があればと思いました。さらによりよいものとなると思います。

6 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・ 現地の方々と直に触れる機会を組んでいただいている研修なので、現地の言葉（英語）が片言でも話せた方がいいと思います。自分が全然だったので…。
- ・ 支援をされる側からの声を拾うことも大切な視点と思います。

7 各訪問先の所感

日 時	訪 問 先	所 感
7月26日 (月)	JICA フィリピン事務所	<p>◇ 視察先についての事前説明・各説明：フィリピン国家警察銃器対策能力向上プロジェクト・マニラ市貧困層における薬物依存症に対する回復支援事業・フィリピンにおける青年海外協力隊の活動について</p> <p>◆ 警察力（治安）の向上がフィリピンの人々の生活向上につながっていく…治安が安定→外国の資本投資がされやすくなる→地元の人々へ就職の機会増→フィリピンの人々の生活向上へ…なるほどなあ～と思います。</p>

日 時	訪 問 先	所 感
		<p>◆ 薬物に手を出さざるを得ない構造的な課題とは、わかりつつ、今、目の前の薬中患者へ支援を講ずる NGO。</p> <p>☆ マクロとミクロの支援方法。ともに現状では必要な支援であると思います。</p>
<p>7月27日 (火)</p>	<p>① サリアヤ町役場アライカ プワ女性農業協同組合</p> <p>② ルセナ市役所社会福祉 総合施設</p>	<p>① 協力隊員（濱田正章さん）の活躍・緩やかなヤシ畑に建つ施設・素朴な建物の中に女性の経済的自立を促す組織、その中の幼稚園も教育論に基づいた教育実践がされていました。</p> <p>◆ 指導者であるシスターの地域における社会的な地位の高さ、その展望と行動力、各段階の議員との接触などから事業を推進している現状には、したたかさを感じました。</p> <p>その組織の製品が販売される野菜市場は、活気があったが、その組織の販売場所は地味でした。経理担当の濱田隊員は、売り上げ向上の提言をされたが、地元の「当たり前」意識から抵抗があったと聞きました。2年間の隊員生活の中で少しずつ彼の考えを広げられたことには、感心しました。</p> <p>② 社会福祉総合施設・協力隊員（小寺麻衣さん）</p> <p>◆ 施設名のイメージとは異なり、社会資本の貧弱さからか、各施設が間借りしている印象でした。収容されている12歳のエイプリル君が、隣の子の字を見つめ、アンケートを書いていました。字が書けない子でした。教育の大切さ実感しました。</p> <p>◆ この寛容な施設で、小寺さんは、郷にいれば郷に従い、自分なりの方法で子どもとの関わりを作られていました。</p>
<p>7月28日 (水)</p>	<p>① トロイ財団</p> <p>② JICA 事務所</p>	<p>① ストリートチルドレン等に高等技術を授ける学校・協力隊員（伊藤貴明さん）・整然とした施設内・会釈</p> <p>◆ 自動車整備の技術を助手的な立場で活躍されていました。伊藤さんは、日本での仕事で壁を感じ、英語を伸ばす意味で海外を希望され、フィリピンへ。エンジニアとしての技術向上思考が、保守的な同僚に少し影響を与えているように見えました。現に彼は何度も働きかけられています。しかし、彼からの「現地と日本の働き様の違い」の言葉も印象に残りました。協力隊員共通の前向きさがある意味、現地に刺激を与えていると思います。</p>

日 時	訪 問 先	所 感
		<p>② JICA 事務所（産業貿易省投資促進アドバイザー 大島さん）</p> <p>日本の企業進出の歴史、マクロな経済資料からフィリピンの経済状況の説明。国内の不安定な地域の存在からくる、この国の課題。中古自動車輸入による弊害。…などなるほどと思います。</p>
7月29日 (木)	<p>① ソルトパヤタス</p> <p>② ショッピングモール</p>	<p>① パヤタス</p> <p>未分別のゴミから価値あるものをより早く見つけ、換金していくというスカベンジャーの人々。そんな人々に教育と生活向上の支援を行う NGO のソルト・パヤタス。</p> <p>◆ 足を踏み入れた途端に、日本では見られない光景に映画の1シーンが浮かびました。雨上がり後の水たまり、下水工事の土管の点在、バラック、昼間なのに往来の多い人々。そんな中で、支援を続けている NGO。本当に頭が下がります。私には、長期間ここで生活と考えると厳しいと感じました。ジャンクショップに入ると、すぐにビニールを焼く煙の悪臭、飛び交うハエ、でも、気にしたのは、我々が入ってきたにもかかわらず、汚れたペットボトルを洗い続ける小学生の子どもの姿。タイヤに溜まった汚水？にタワシをつけながら、手を休めない。1日400円になるといいます。その金を持って、明日は学校に行くと言っていました。ジャンクショップのオーナーの話があったが、この子の方が気になって、自然と涙が潤みました。</p> <p>もう一人の17歳の子は、もう学校はあきらめたから、弟、妹の学費のために働いていると言っています。その後、マンモス小学校に行ったが、同じ時に働く子と教育している子がいるという意識にこの国の現実を実感。学校の子どもたち、先生方は元気で、おもしろい授業をしていただきました。家庭訪問もさせていただいて、また、教育にかける思いをその母親から聞きました。</p>
7月30日 (金)	<p>① 薬物依存患者に対する回復支援推進事業</p> <p>② フィリピン国家警察</p>	<p>① マニラ市貧困層における薬物依存症に対する回復支援事業</p> <p>◆ 貧困が故に、酒やドラッグに走ってしまう環境に手をつけていくことも一方で必要だが、この環境に染まった人々を支援する地元の人々自らの組織も大切。</p>

日 時	訪 問 先	所 感
		<p>現地に行き、支援している方、患者の方との交流があったが、熱意で支えられていると実感したが、まだよくわからない部分が多かったようです。</p> <p>② フィリピン国家警察銃器対策能力向上プロジェクト</p> <p>◆ 「日本のレベルは、世界の標準以上です。そのことを意識しておく必要があります」京都府警からのお巡りさんに言われました。犯罪などに関する統計資料などが不十分で地道に支援しているとのこと。しかし、体感治安という安全であるという感覚は、安全な方にある国であるとのこと。犯罪の根本は、貧困の撲滅にあると警察でも聞きました。そのためにも、治安をより高めることが必要で、外国の企業誘致増加や観光客増加につながっていくと思います。</p> <p>◆ 各現場の努力は、点であるが、より多くの点を作ることにより、線や面に向上していく…希望を持った地道な取り組みが必要だと思っています。</p>

派遣国	フィリピン
学校名	福岡市立筥松小学校
担当教科	全教科
氏名	小島 夕季

① 今回の研修参加に際して、特に主眼をおいた点

フィリピンの格差の根本原因は何か、また、現地で日本人がどのような取り組みをしているのか。

② 視察を通して参考になったこと／疑問に思ったこと

マクロ的な側面から、またミクロ面からと多くの日本人がフィリピンで活動されていることを知り、同じ日本人として非常に嬉しい気持ちになりました。それぞれの現場で、試行錯誤しながら問題に立ち向かっている姿は見習うべきところがたくさんありました。また、パヤタス地区で、学校へ行かず働いている少年との出会いに衝撃を受けました。日本の子ども達に、当たり前のように学校に行くことが実は当たり前ではないということを授業実践を通して伝えられたら、と思います。

③ 教育指導への活用について

自分自身が教育に携わる人間として、「多様な考えを柔軟に受け入れること、自分の価値観を押し付けないこと」を根底に持っていたいと思うようになりました。その理由は、現地で取り組まれている日本人が、自分の日本でのやり方を強要するのではなく、意見を取り入れながら試行錯誤されている姿を見てから感じました。その結果、相手がそして自分自身が変容していくと考えます。

④ 研修に関する全般的な所感／意見について

濃い1週間でした。やはり現地に行かないとわからないことや感じられないことがたくさんありました。素晴らしい機会を頂き、本当に感謝しています。

⑤ JICA に対する要望・提言

短期間の研修で移動距離も長く少しタイトなスケジュールでした。年齢層も幅広かったので、時間的にもう少し余裕があるとよかったですと思います。

6 今後の本研修参加者へのアドバイス

先入観や自分の価値観にとらわれずに、柔軟な姿勢で多様な価値観に触れて欲しいと思います。新たな視点や発見があるはずです。

7 各訪問先の所感

日 時	訪 問 先	所 感
7月26日 (月)	JICA 事務所 ・ JICA 事業について ・ PDP プロジェクト概要 ・ APARI ・ JOCV の活動	JICA がフィリピンに対して、多様な援助を行っていることを知りました。「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を与える」JICA の考え方は、教育の視点で考えても共感できる点がたくさんありました。現地で活動されている方に早く出会い、どのような思いや願いをもっているのか、たくさん感じとっていきたいと思いました。これから日程が非常に楽しみになりました。
7月27日 (火)	JOCV 村落開発普及員 濱田正章さん サリアヤ町役場 女性農業共同組合 ・ 会計管理 ・ ココジャム作り ・ デイケア運営 ・ 思い、願い、悩み	車で4時間かけルセナという町へ来ました。ここでは同世代の JOCV 隊員が、まさに“試行錯誤”しながら活動されていました。濱田さんが「自分のしたいことを全面に出すのではなく、現地の人の考えや意見を尊重しながら活動している。」と話していた姿が印象的でした。仕事の満足度が20%とも話していました。短い派遣期間の中で任務をこなすことの難しさが伝わってきました。
7月27日 (火)	JOCV 青少年活動 小寺麻衣さん ルセナ市役所 社会福祉総合施設 ・ 子どもたちの心のケア ・ PC 操作指導 ・ 思い、願い、悩み	日本ではありえないような社会福祉総合施設のあり方にまず驚きました。設備の不十分さを感じました。特定のカリキュラムのない中でどう活動すべきか、自分なりに考えながら“試行錯誤”する小寺隊員の姿は周囲の人からも受け入れられ、必要とされているように感じました。短期間で現状を変えることは難しいが、地道に活動することが一番大切なことであるように感じました。
7月28日 (水)	JOCV 自動車整備 伊藤貴明さん トロイ財団 ・ 職業訓練(実社会に即した) ・ ストリートチルドレン、低所得家庭 ・ 思い、願い、悩み	この財団には、マニラだけでなくフィリピン全域から生徒はやっているとのことでした。そこで学ぶ学生の表情がどの子も生き生きとしていて学ぶことに対して非常に意欲を感じました。また、伊藤さんも、他の JOCV 隊員と同じように葛藤していました。彼の話で印象的なことは、フィリピンで生活して日本のよいところも悪いところも見えるようになったというのでした。3人の話で共通して、日本のやり方が受け入れられるためには、柔軟に現地の考えと折り合いをつけながら行動することだと感じました。3人とも生き生きとしていて魅力的でした。

日 時	訪 問 先	所 感
7月28日 (水)	産業貿易省 投資促進アドバイザー 大島専門家 ・ フィリピンへの直接投資 ・ 国内産業の貧弱さ	トロイ財団視察の後、大島専門家から「フィリピンでは自動車産業に未来がない」という話を伺い、複雑な気持ちになりました。産業の高度化多様化の進んでいないフィリピンにとって、海外直接投資が国内産業の多様化・重層化、雇用の創出に貢献するという点で重要であるということが分かりました。貧困解消のためには想像以上に複雑なフィリピンの社会構造が要因であるということも実感できました。
7月29日 (木)	ソルトパヤタス ・ 住民への収入手段確保 ・ 保健事業協同組合の設立 ・ ソルトスタッフの思い	今回の研修で一番印象的な一日でした。最初、テレビで見たことのあるスモークーマウンテンを目の前にきたとき、数年前に崩落事故で多くの命が失われたこと、そこで働く人、暮らす人のことを思うと複雑な思いになりました。そこで一人の少年に出会いました。彼は11歳で、幼い頃から家族の生計を助けるために兄弟と交代でペットボトル洗いなど1日8時間、仕事をしながらお金を稼いでいるといます。彼は「大切な物は勉強をすること」と話しました。話をしながらも無心で笑顔も見せずにペットボトルを洗い続ける少年。彼の表情を忘れることができませんでした。ソルトの今後の調査とスポンサーが見つかり次第奨学金候補の対象になるということでした。ソルトは奨学金事業の他にも地域のお母さんたちを対象に収入手段確保のため製品開発なども行っていました。ここで出会ったフィリピンの方は今までの方とは少し様子が違っていました。それは「向上心、自信」です。フィリピン人スタッフが「将来的にはソルトパヤタスから独立してフィリピン人だけで事業を行っていきたい。」と話しました。これも、パヤタスの地で15年現地の人たちと試行錯誤しながら根付いて活動してきたソルトパヤタスの成果であると確信しました。「がんばりたいと思う人がいるからがんばれる。もしパヤタスが自立できるまでになった暁には、私は支援を必要とする他の地域に、また1からソルトを設立したい。」と話す代表の小川さんの話は心を打ちました。小さなことからコツコツと、それがようやく成果としてあがってきています。国際協力の意義を再確認できた一日でした。
7月30日 (土)	NGO APARI ・ マニラ市貧困層における薬物依存者に対する回復支援推進事業 ・ ミーティング参加者との対談	貧困による飢えから免れるための手段として、薬物に手を染める人が多くいるフィリピン。今まで富裕層しか受けることのできなかつた回復プログラムを推進している団体です。今回は、実際にプログラムに参加して薬物から回復しようとしている参加者とも対談できました。彼らの中には、職を得て自立にむけて進んでいる人もいました。その表情は前向きで、生き生き

日 時	訪 問 先	所 感
		<p>としていました。千里の道も一歩から。それを感じた視察でした。</p>
<p>7月30日 (土)</p>	<p>フィリピン国家警察 PNP ・銃器対策能力向上プロジェクト</p>	<p>銃犯罪の多いフィリピンで、銃器の取り締まりや銃器登録、指紋特定（鑑識）分野などで、警視庁を始め全国の警察官が PNP に派遣されていました。人的能力向上により、犯罪が減り、外国からの投資が増え、結果的に貧困が削減できるという一連のサイクルを目指して支援を行っているといいます。派遣されている小粥さんは、「日本のやり方を押し付けると、この国では成果はでない。もっと柔軟にあまり肩に力をいれずに現地の人と足並みをそろえて活動することを心がけている。」と話していました。ここでも、“郷に入っては、郷に従え”の考えが大切であるということを実感しました。</p>
<p>7月30日 (土)</p>	<p>総 括</p>	<p>1 週間の間、様々な現場を視察して“貧困は簡単に解決することではない。でも、だから『無理』だと諦めてしまえばそこでおしまい。目の前に困っている人がいる限り、自分のできることを考えながらコツコツとやること。その積み重ねで『何かが』変わり、それも『柔軟に』そして『相手（人や国）の背景や思いを尊重しながら』することが大切。その結果、フィリピンも変わるし、自分自身も変わっていく”ということを感じました。出会ったどの方も現状に満足せずひたむきに自分の出来ることを模索しながら取り組んでいました。彼らはみな、生き生きとしていて魅力的でした。私も、自分に何が出来るのかを考えながら、色々な意見を尊重できる教師であり、そんな人間でありたいと感じました。素晴らしい仲間とともに意義深い1 週間を過ごすことができました。</p>

派遣国	フィリピン
学校名	日之影町立八戸小学校
担当教科	算数・社会・理科・音楽・家庭科
氏名	齊藤 佳世子

1 今回の研修参加に際して、特に主眼をおいた点

フィリピンの国そのままの姿を感じ取ることができました。その中でフィリピン国内には様々な格差があることが強く印象に残りました。世界にはフィリピンのような問題を抱えている国が現存している事実を受け、その解決に向け私自身が日本の子どもたちにどう伝えていけばよいかを考えています。

2 視察を通して参考になったこと／疑問に思ったこと

JICA フィリピン事務所・3人の青年海外協力隊員・現地の方々の話などでフィリピンの実態がよくわかり大変参考になりました。

① トロイ財団 自動車整備

17～20歳 就職率60～70%。隊員の仕事は、アドバイスをすることだが、同僚の年配教師が新しいことに耳を傾けてくれないという状況らしく、年配教師が人の話を聞くように事前に指導してなかったことは疑問でした。

この施設のおかげで貧困が解消されていることという点ではよかったが、自動車産業はこの先見通しが厳しいとの話を聞いたので、将来を見通した取組を今から行っておく必要があると思いました。

② ソルトパヤタス

小学2年生「昼ご飯代がないから学校を休んでいる」「夢はなくなった」とペットボトルを洗う手を休めることなく話す子どもがいました。一方では小学校にカメラ付きゲーム機を持って来ている子どももいて同じ所にいながら、どうしてこんなに貧富の差があるのだろうかと感じました。

それぞれ3人の隊員が生活向上を目指し懸命な努力や働きかけをしても、自分たち（フィリピン人）が満足できれば、それ以上を望まない現状があります。それは、「苦しくなったら援助がある」と援助に頼ってしまう所があるからだと言いました。それらを考えると、果たして援助が必要なのだろうか、と不思議に思います。日本の援助の仕方や方法を考え直す必要があるのではないのでしょうか。

日本が現在先進国となっているのは、戦後自分たちで立ち上がって努力してきた成果なので、自分たちに合った国のあり方を考えさせることが必要ではないかと思います。

一つに、ソルトパヤタスを視察した際、パヤタスの母親3人が日本に来た時の印象が「日本人はよく働く、時間を大切に作る、秩序が守られている（電車・エスカレーター）、人とのふれあいがなく寂しい、コミュニティに人がいない」などでした。私たちには違和感のないことだがフィ

リピンの人から見ると受け止め方が全く違うのです。そのように異なる日本人のやり方ではフィリピン人に受け入れられるのは大変難しいでしょう。

ただ、ソルトパヤタスは小川さんが造ってから15年が経過しているということもあり、母親たちが「日本人がいなくなってもできるように」とフィリピン人の意識まで変えることができます。時間も必要かも知れないが、援助方法を考える時期に来ているのではないのでしょうか。大切なお金を有効に活用する方法を見付けるべきだと考えます。

3 教育指導への活用について

- フィリピンの国を知る。(よい所も悪い所も・・・日本から見て)
貧困の実情を強調しすぎると「かわいそう」などの感想が中心になってしまい、相手の文化を尊重しようとする視点での国際理解の心情を育みにくくなるでしょう。
指導の対象となる児童が小学生であることから、クイズや食などの文化面を取り入れ、他の国の文化に親しみをもたせ、学校での学習内容や生活様式の比較から自分たちのとの共通点や差異点を見付けさせ日本や他の国の理解を深めさせていきたいと思えます。
- JICAの活動を知る。(JICA デスク宮崎から来てもらう。)

4 研修に関する全般的な所感／意見について

- 隊員の方々のひたむきで諦めない意志と行動力に感動しました。
- 産業がない、国産の車もない、石油もでない、優秀な人が多いが海外に流出してしまう。それが実態なのだが、そこで終わるのではなく、その優秀な人材が国内で働けるようにフィリピンが国の問題として取り組むべきだと思います。
- JICAの活動は小さいことから、国レベルの大きなことまで様々なことに取り組んでいるのだと初めて知り「これらの活動をもっと広める必要がある」と実感しました。まずは私の勤めている八戸小学校にJICAの方を招き、子どもたちや先生方に話をしてもらう機会を計画したいと思えます。

5 JICA に対する要望・提言

- 移動時間を加味してスケジュールを考える必要があります。(移動時間が長かった。)
- 訪問や視察は午前・午後の一つずつが限界だと思います。
- 途中に一度でいいのでみんなでじっくり話し合ったり、振り返って考えたりする時間がほしいと思いました。
- 訪問途中で話を切るのには難しいとは思いますが、時間が遅れて訪問先に迷惑がかかったので、余裕をもった計画を立てる必要があると思えます。

6 今後の本研修参加者へのアドバイス

- 振り返りなどで発表する時は、全員が発表できるよう一人一人が簡潔に話すとよいと思いました。

7 各訪問先の所感

日 時	訪 問 先	所 感
7月26日 (月)	① JICA 事務所 ② じき原さんの話	① JICA の幅広い活動を改めて知りました。 ② 貧困ゆえに薬物にはしってしまう哀しさを感じました。
7月27日 (火)	① サリアヤ町役場アライカ プワ女性農業協同組合 ② ルセナ市役所社会福祉 総合施設	① 浜田隊員の思いが通じないもどかしさや、気遣うこと の大切さを痛感しました。(でき上がっている所 に入っていくのは難しい) 保育園を創立させたシスターの教育論は素晴らしく 話を聞くことができよかったですと思います。 ② 軽犯罪を犯した青年の施設と同じ敷地内に虐待され た少女たちや親がいない小さい子どもたちが一緒 にすることに施設長も頭を悩まされていたし、私もと ても気になりました。軽犯罪の施設だけでも違う敷 地に移せないのでしょうか。
7月28日 (水)	① トロイ財団 (自動車整備) ② 産業貿易商 (大島さん)	① 都会に近く1人暮らしの伊藤隊員の生活は厳しいだ ろうと思うが、一生懸命に取り組んでいる姿に感動 しました。生徒たちが学ぶ意識が低い理由に賃金が 安いことがあり、その背景にはフィリピンの政治・ 経済の影響があるように思います。 ② 「もう車は手遅れ」との話から、自動車産業から未 来に明るい展望のもてる職業に変える工夫をしてい くべきだと思います。
7月29日 (木)	① 学校視察 ② ソルトパヤタス	① 全校生徒5000人のマンモス校、午前・午後の2部 構成で1クラス60人以上には驚きました。4年音 楽、5年算数を見学～先生方は前もって準備をされ ていた上に時間も遅くなり申し訳なく思いました。 4年生の子どもたちは生き生きと楽しそうに参加し ていたが、楽器が1個もないのに驚きました。教師 用オルガンもなく、指導の大変さを感じました。そ れでも一生懸命学習しているこどもたちの姿を見て 感動しました。 5年生の中には年上の子がいてカメラを授業中自由 に使っており、あまり授業にも参加せずいきがっ ているのを見て、どこの国でも同じ悩みがあるのだな と思いました。 ② 思っていたほど臭いは気にならなかったし、住んで いる人々や街も小綺麗に感じました。 「日本人がいなくなってもやっていけるように」と の意識をもたせる所まで変えていった素晴らしい方 (小川代表)に出会うことができたことに感謝した いと思いました。 アンジェリカ家訪問～日本人の援助は金銭的なもの だけでなく、援助してくださる方との交流(面会・

日 時	訪 問 先	所 感
		<p>手紙)を通して子どもに希望を与え、学習意欲を高める取組も行ってほしいと思いました。</p> <p>「地域の秩序が守られていないせいで息子が逮捕され拘留されたままだ」という母親の嘆きを聞きました。警察官の賃金が低いということもあるのか、ここでもフィリピンという国の経済・社会がうまく機能していないのではないかと感じました。</p> <p>今回の研修を受け、改めて外から日本を見つめることができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時間に追われすぎている。 ○ コミュニケーションが不足している。 ○ 日本人の方が哀れなのかも知れない。
7月30日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ① 薬物依存症者～ファミリーウェルネスセンター ② 国家警察～銃器対策 	<ul style="list-style-type: none"> ① 話はよくわかったが今ひとつ活動自体の実態がつかめませんでした。 ② セブ島・マクタン島～銃器産業が盛んでした。銃は登録制だが登録していないのは数十万に上るといいます。 <p>密造をなくすことが仕事だが、5000ペソから手に入るので難しい。しかも給料も安いので現状では銃器をなくすのは現実的には難しいのではないかと思います。</p> <p>貧困と犯罪は密接に関連していると説明を受け、問題の大きさや根深さを感じるとともに、日本が安全・安心な国であることを改めて痛感しました。私たちが取り組めるものはないかと考えさせられました。</p>



【今回の研修に参加した先生方】

派遣国	フィリピン
学校名	大牟田市立歴木中学校
担当教科	理科
氏名	下川 雅史

1 今回の研修参加に際して、特に主眼をおいた点

今回の研修のテーマは、「貧困」でした。そこで、今回の研修参加に際して、二つの点に主眼をおきました。一つめは、「貧困」の現状とその影響を受ける子どもたちについてです。二つめは、貧困を解消するために頑張る人々（特に日本人）の取り組みとそれに込められた想いについてです。そして、この二つの点を、自分の目で見て感じて、写真や映像に残しておくことです。これらが、私が行ってきた「貧困」の授業で足りないものだからです。

本年度、中学一年生を担当していることもあり、中学校に入学してきた生徒に教科書配布後の最初の学級活動で、「教科書無償について考えよう」という授業を行いました。そこで、インドネシアの公立の中学校を視察した時の話をしました。「教室で理科の一斉授業の様子を観察しました。すると、あることに気が付きます。それは、使っている教科書が違う子どもたちが何人もいることです。つまり、学級のみんが教師と同じ教科書を使っているわけではないのです。インドネシアでは、教科書が無償ではないために、年度初めに生徒は教科書を買わないといけません。失業率の高いインドネシアでは、教科書を買えない家庭がたくさんあるのです。そのため、兄姉や親戚の使った教科書を大事にとっておいて、おさがりの教科書を使うのです。日本では、教科書をこの子どもたちのように大事に使っている生徒は少ないのではないのでしょうか。みなさんは、教科書を大事に使っていますか。」しかし、この話をするとき後悔するのは、なぜ、このときの様子を写真や映像に残してきていなかったのか。写真を見せて、「この写真から何か気が付きませんか」と問いかけ生徒自身に気付かせることができれば、さらに説得力のある授業になるのではないか。実際に自分が見てきたことを、写真や映像を使って授業を行えば、子ども達により伝えることができる授業になると思うからです。ただ、漫然と視察をしてきても、あとで授業を行おうとした場合、肝心の資料や映像がない場合が多いのが現状です。今回のフィリピン研修では、総合で「貧困について考える」と題して、貧困の現状を知り、その影響をうける子ども達を自分達と比較しながら考え、貧困を解消するためにどうすべきか、自分達にできることは何かについて考える授業を行うこと、道徳で「世界で頑張る日本人」と題して、JICAで働く人々の生き方に焦点をあてた授業を想定して、きっかけや活動しているときの想いとこれからをインタビューしようとする目的意識を持って視察をしました。

2 視察を通して参考になったこと／疑問に思ったこと

今回の視察で一番興味があったことは、JICAやNGOで働く日本人の想いや青年海外協力隊やボランティアをするきっかけです。その理由は、中学校の教師をしていると、年々自己中心的で自分さえよければいいという生徒や困難なことに挑戦したがる生徒がふえているのではないかと感じる

からです。JICAやNGOで働く日本人の想いを伝えたり、海外で働くきっかけになった出来事などを、生徒に話したり体験させたりすることができるなら、生徒の心を大きくゆさぶることができるのではないかと思ったからです。

視察を通して、貧困を解消するための取り組みだけではなく、そこで頑張っている日本人に、直接インタビューして、活動を通しての苦労やうれしかったこと、今後の夢や根底にある想いを聞くことができたのが一番の収穫でした。人それぞれにいろいろなきっかけからこの道に入り、与えられた環境の中でいろいろな問題点にぶつかり、悩みながらも全力でがんばっている姿が、私自身や生徒にとっても、生き方を学ぼうえで参考になると思います。

③ 教育指導への活用について

具体的な授業としては、総合的に学習の時間で「貧困について考える」、道徳で「世界で頑張る日本人」として取り組もうと考えています。それらの授業を通して、実際に貧困について深く考え、何か行動できる生徒にしたいという想いがあります。

そのために、まず、生徒が「貧困」が問題であるという意識を持つことが大切です。そして、取り組むべき課題「貧困」について知り、その課題「貧困」と自分のつながりを考え理解し、その課題「貧困」解決のために人と意見を交換し、共にあるべき方向を確認し、行動できるような授業にしていきたいと考えています。

④ 研修に関する全般的な所感／意見について

今回の研修で、JICA 事務所でのフィリピンのおかれている現状やそれに対する JICA の取り組みを聞かせていただき、今までよく自分で理解していなかった JICA が何を行っているかが分かりました。また、いろいろなところを訪問させていただき、そこで働く人の思いや苦労、うれしかったこと、国際協力の難しさも知ることができました。

ただ、見学するだけではなく、直接そこで仕事に携わる人に自分の疑問をぶつけ、その人の思いや考えを聞く時間がとれたことがとても有意義でした。ここで学んだことは、キャリア教育（生き方）、国際理解・国際貢献の授業に活かしていきたいと思っています。

⑤ JICA に対する要望・提言

観光旅行のように多くのものを矢継ぎ早に見学するのではなく、半日に一つぐらいで時間をかけて見て回れたのがよかったと思います。それでも、知りたいことが山ほどあり、いろいろ質問しているうちに時間がおしてしまうこともありました。さらに時間があれば、もっとよかったと思います。さらにたくさんの人と話ができる研修にするためにも、研修期間があと何日か長ければいいと思います。

⑥ 今後の本研修参加者へのアドバイス

ある程度下調べをして、授業のイメージを持って研修に参加した方がいいと思います。同じ景色でも見えるものが違ったり、集める情報や写真などが違ったりしてくると思います。

7 各訪問先の所感

日 時	訪 問 先	所 感
7月26日 (月)	JICA フィリピン事務所	<p>JICA フィリピン事務所では、次の四点について説明を受けました。一つめはフィリピンでの JICA の活動の概要について、二つめはフィリピン国家警察銃器対策能力向上プロジェクトの概要とその意義について、三つめはマニラ貧困層における薬物依存症に対する回復支援事業の日本側の中心になっている APARI の活動とその考え方について、四つめは、フィリピンにおける青年海外協力隊の活動内容についてです。</p> <p>これらの説明を通して感じたことは、JICA がフィリピンに援助する場合、物を与えるだけではなく、現地の人をトレーニングし、組織をつくりあげ、それを国全体に広げていくシステムをつくることで、有効にはたらくよう支援していることです。</p> <p>警察を支援することで能力を向上させ、その結果犯罪が減り、フィリピンのイメージ回復が図られることで投資が増え、職場ができ、そこで働く人が増え、貧困の解消にも一役をかっています。</p> <p>JICA の様々な活動が、フィリピンの発展と貧困の解消につながっていることを感じました。</p>
7月27日 (火)	サリヤナ町役場 アライカプワ女性農業協同組合 (青年海外協力隊村落開発普及員 濱田正章さん)	<p>Alay Kapwa (相互扶助) 女性農業協同組合では、大きく二つの取り組みを視察しました。一つめはココナッツジャムなどの加工や市場での販売について、二つめはシュタイナー教育を行う幼稚園の運営についてです。どちらもシスターが中心になって行われていることが印象的でした。この組合はもともとあったのですが、援助に頼る部分が多く会計簿の提出が求められても提出できなくて、会計やマーケティング事業のシステムづくりの要請があり、濱田さんが派遣されたそうです。</p> <p>濱田さんの話の中で一番心に残った言葉は、「仕事の達成度 20%、生活は、100%」です。要請は、会計簿をつくることです。しかし、会計簿をつくったことで、運営は大きな赤字が判明します。それを指摘し、無駄の削減を図り黒字化を図るための取り組みを企画し、援助に頼らない自立できるシステムをつくりたいと提案しますが、赤字のはずはないと聞き入れないシスターともめることもあったそうです。その中で、もともとあった施設に入り、自分の考えを実行することの難しさや、違う価値観を持っている国や人への協力の難しさを感じたそうです。それ以来、プライドを傷つけないように気を使って活動しているようで状況を変えることができずに任期が終わることに悔いがあるようでし</p>

日 時	訪 問 先	所 感
		<p>た。その一方で、大家族の中でのホームステイの生活は、貧しいながらも濃密で温かい関係にとっても満足しているそうです。</p> <p>フィリピンでは、一人で生きていくような感覚がうすく、協力し助け合いながら生きていく感覚が強いと感じました。いわゆる援助なれもあり、濱田さんの考え（いわゆる日本人がよしとする考え）が伝わらなかったのかなと思います。「自分のしたいことはあるが、その国の人を尊重しながらやっていくことが大切で、協力隊として何ができるのか」を考え続けたという言葉が印象的でした。もしかしたら、国際貢献として、日本人の考えでよかれと思ってやっていることが、フィリピン人にとって望んでいないことをやっていることもあるのかなと思いました。</p>
<p>7月27日 (火)</p>	<p>ルセナ市役所 社会福祉総合施設 (青年海外協力隊青少年活動 小寺麻衣さん)</p>	<p>視察した場所は、児童養護施設、医療施設、老人の保健施設、軽犯罪を犯した子どもの施設などが一カ所に集まった社会複合施設です。ここで、家族とともに暮らせない子どもを保護し、学校に行かせ、カウンセリングやソーシャルスキルトレーニングをし、自立・更正に取り組んでいました。</p> <p>小寺さんは、その中で子どもが参加するイベントの企画やパソコン教室などの指導をしているということでした。赴任当初、仕事は、カリキュラムの支援で何をしてもいいよと言われ、学校に行かない子どもたちにいろいろなスポーツや遊びを行ったり、集めて授業をしようとしたりしましたが、あまり効果がなく、自分ができることはないと自信をなくし、3ヶ月でかえりたくなったそうです。そんな中、援助でもらったコンピューターが使われていなことを知り、それを使って、子どもたちに読み書き、計算を教えたそうです。また、集団で教えるのではなく、一人一人の状態を見ながら、個別に教えるようにしたそうです。自分にできることを探し続けた2年間だったそうです。</p> <p>ここで感じたことは、市が中心になり、しっかり福祉施設が運営されていることに驚きました。また、施設が未分化の中にも良さがあるのかもとも感じました。ここでも、うまく中に入って現地の人と関係をつくり、その中でがんばっていくことの大切さを感じました。</p>
<p>7月28日 (水)</p>	<p>トロイ財団 (青年海外協力隊自動車整備 伊藤貴明さん)</p>	<p>視察した場所は、ストリートチルドレンや低所得家庭の子どもを対象に、無償で基礎教育や職業訓練を行っているところで、今回は自動車整備コースの授業を視察しました。伊藤さんは、現地スタッフの補助として、カリキュラム作成の助言や講義・実習の内容の助言や</p>

日 時	訪 問 先	所 感
		<p>授業を行っているそうです。その中で、同僚は、旧態依然の昔の車の整備の仕方の授業に固執し、コンピューター制御の車に対応したカリキュラムを提案しますが受け入れてもらえません。しかし、生徒のために、自作のプリントや今の車の雑誌を集めて、生徒が見られるところに置いたり、同僚は、分からないところは言ってこないの、自分が察知して資料を用意したりして頑張っているそうです。</p> <p>ここで一番印象に残ったのは、伊藤さんの言葉です。「自分は、英語のステップアップのために、ここに来たが、ここで生活していくうちに、日本で持っていた上昇志向が薄れ、もっと気持ちを楽に持って生活するのもいいのではないか、と思えるようになったこと。現地の人、これで幸せを感じているんだなと思えたこと。日本を外から見たことで、日本の良さや問題点が見えるようになった。生徒に感謝されることの幸せを感じ、これからも指導者としてやっていきたい。」</p>
7月28日 (水)	JICA 事務所 (産業貿易省投資促進アドバイザー 大島専門家)	<p>フィリピンと日本の関係から始まり、ASEAN との関係、アメリカとの関係など、これまでの日本が投資をしてきた歴史的背景について幅広く話を伺いました。フィリピンでは、目立った資源もなく、農作物以外ほとんど自国では物を作らず、コールセンターなどのサービス産業で働いたり、人口の一角が外国で働きそのお金を使ったりして成り立っています。そのため、足りない業種を日本から持ってくるよう働きかけを行っているそうです。ここは、ASEAN の関税の撤廃が行われると、フィリピンは苦しくなること、優秀な人材が海外に流れないように、働く場所の確保が大切であることなど 経済的な背景がわかり、とても勉強になりました。</p>
7月29日 (木)	ケソン市パヤタス地区 ゴミ処分場 (NGO ソルトパヤタスで活動する小川代表)	<p>ソルトパヤタスは、1995 年より、パヤタス地区のゴミ処理場付近で生活する特に低所得で学校に行けない家庭の子どもに、奨学金を与え、学校に通わせたり、補習授業を行ったりしながら教育による貧困解消と、保護者にゴミ拾いの仕事に変わる刺繍の仕事での収入向上による貧困解消をめざしています。今回、ソルトで働く人、小学校、現地の子どもとそこで暮らす人々を視察し、インタビューやアンケートを行いました。</p> <p>ゴミ山で働く子どものインタビューが忘れられません。「昼ご飯代がなく、学校に行けないので働いている。」。将来の夢は何ですかという問いに「夢なんかない。もう忘れてしまった。」この子達の現状を見て何も言えなくなりました。逆に、ソルトで働く小川さんの夢を聞いて感動させられました。「15 年活動してきてもま</p>

日 時	訪 問 先	所 感
		だ発展途上。ただ、ゆっくりと現地の人達の意識が変わり、援助に頼らず自立していきたいという気持ちが表れてきている。が図られている。現地の人によって自立できたならば、次は、もっと苦しい地区に行って、同じような組織を立ち上げて活動していきたい。それをくり返し行うことで、フィリピンの貧困解消のお手伝いをしていきたい。」
7月30日 (金)	薬物依存症者に対する 回復支援推進事業現場	ファミリーウェルネスセンターとアパリが共同で行っている薬物回復プログラムの説明を受けました。薬物に関する調査、薬物中毒者とのミーティング、ミーティングを行うリーダーの育成を行っています。今までは、裕福層にしか治療が行えませんでした。JICAの支援を受けるようになり、貧困層に無料でプログラムを実施することができるようになったそうです。また、実際にミーティングに参加している人に会って話を聞きました。その中で今まであきらめていた人達が、「抜け出していないけど変われそうな気がする」「薬物に手を出さなくなると仕事が見つかった」「将来小さな食堂がしたい」など夢を語れるようになったことが、大きな成果なのかなと感じました。
7月30日 (金)	フィリピンマニラ国家警察 (JICA 専門家 銃器対策能力向上プロジェクト 小粥達朗さん)	フィリピン国家警察では、犯罪対策能力向上プログラムの一環として、鑑識、初動捜査、そして犯罪検挙時に採集した指紋をデータベース化し、コンピューターで、被疑者特定を迅速に行うシステムの整備と組織作り、指紋検察官への技術指導を行っているそうです。また、銃器対策能力向上プログラムとしてや違法銃器減少のための協力、拳銃の発射痕鑑定システムの援助などを行っているそうです。そして、これらの二つのプログラムを行っている場所を視察しました。 小粥さんの話では、フィリピンでの検挙率は95%と言われますが、統計管理がされていなく、地方からのデータも上がってこないのが現状です。違法銃も多く登録をされていないのが現状で、警察官の給料が安く、副業をしている人も多くいるとのことでした。そのような中で、計画どおり、思った通りには物事は進まなく、あきらめたり、辛抱強く待ったりすることも大切だと思ったそうです。 ここでも、フィリピンにあった協力の仕方が大切だと思いました。
7月30日 (金)	JICA 事務所	一番印象に残ったことは、活動している人達が生き生きとしていて、エネルギーがあふれ、すばらしい笑顔をしていたことです。

派遣国	フィリピン
学校名	北九州市立天籟寺小学校
担当教科	
氏名	宮崎 聡美

1 今回の研修参加に際して、特に主眼をおいた点

- ・ 新たなひと・もの・ことと出会い、関わることを通して、物事に対する新たな見方・考え方を自身に養うとともに、「真の豊かさ」を追求する。そして、子どもたちの見方・考え方を広げる。
- ・ 実際に現地の方々と関わり、彼らの目線から物事を捉えることで、フィリピンの生活や文化、社会的問題をより理解するとともに、より身近な問題として捉える。そして、私たちがもっと笑顔で過ごすために、自分にできることは何かを考え、具体的な行動に移す。

2 視察を通して参考になったこと／疑問に思ったこと

- ・ 五感を通して、フィリピンの現状や海外で働く日本人たちのことを学べてよかったです。
- ・ 貧困を解消するための支援の在り方や、仕事に対する意欲の引き出し方について、もっと詳しく知りたかったです。

3 教育指導への活用について

総合的な学習の時間や道徳の時間、日々の会話を活用して、本研修における学びを積極的に発信していきます。そして、当たり前なこと（家族や友達がいる、学校に行って学べる、家や食べ物、服、靴、文房具があるなど）が当たり前じゃないことに気づき、それらに感謝したり、幸せを見出したりすることができるような心を子どもたちに育みます。また、学習を通して、子どもたちが、新たな価値観に気付いたり、「真の豊かさ」や「大切なもの」、今後の自己の生き方について考えたりすることができるようにします。多様な世界に触れる機会を設定することで、子どもたちの夢や可能性、価値観を広げるとともに、互いに理解し、尊重し合い、協力していくなど、国際社会を強く優しく生きていける人間性を育みたいのです。

また、本研修を通して得た学びは、通信や掲示、研修等を通して、保護者や職員、他の学年の子どもたちに積極的に発信していきます。そして、校内で積極的に国際理解教育の推進に努めていきます。

4 研修に関する全般的な所感／意見について

たくさんのひと、もの、こととの出会いを通して、心を揺さぶられ、物事への価値観が変わりました。また、同じ地球人として、共に生きることの意味を、より深く考えるようになりました。

夢や大切なもの、うれしかったことなどを多くの人に聞いたところ、共通して、家族（人とのつな

がり)を大切なものに挙げていました。フィリピンには、政治、経済、教育、環境など様々な面で課題は山積みですが、人々の心は、日本よりも豊かに感じました。「今」を一生懸命生きている人や自分たちの力でコミュニティを活性化させようと献身的に努力している人たちに会って、本当に大切なものは、人とのつながりや愛情、「今」を大事に生きるということではないか、と思いました。

また、JICA等に携わる人々が、相手を尊重しながら、多面的な視野をもって関わり続けてきた結果、点が線、面になって、現状がよくなってきているということを知りました。私は、多くの出会いを通して、人として、大切な視点到気付かされました。また、一步の大きさを感じましたし、思いを行動につなげる勇気ももらいました。今、私にできることは、学んだことを周りの人たちに発信し、知って、感じてもらうことだと考えます。未来につながる確かな一步と信じ、実践していきたいと思います。

5 JICA に対する要望・提言

- ・ 様々な角度から、フィリピンの現状を知ることができたので、よかったです。しかし、より深く理解するためにも、訪問先における滞在時間をもう少し長くしてほしいです。
- ・ ホテルが高級過ぎたように思います。開発途上国で厳しい環境で暮らしている人々を目の当たりにしている中、豪華過ぎるホテルには気が引けました。

6 今後の本研修参加者へのアドバイス

帰国後の授業をイメージしながら本研修に参加したので、その観点から学ぶことができました。研修の目標や目的を明確にもつことが必要だと思いました。また、参加者同士、イメージを共有して視野を広げたり、そのための教材を収集し合ったりすることの有効性を感じました。

7 各訪問先の所感

日 時	訪 問 先	所 感
7月26日 (月)	JICA フィリピン事務所	JICA がひと・もの・こと・組織を現地の方々と共に育てることに重点を置いて、草の根的に支援しているということが分かりました。また、日本とフィリピンのつながりを知って、フィリピンにおける課題をより身近に思ったし、多面的な角度から現状や物事を促えることの必要性を感じました。そして、可能性を信じて、目の前の人たちのために懸命に尽くしている人がいることを知り、教育の現場と同じだと思いました。また、貧困が、様々な面で、更なる困難を生んでいることを知り、救済を緊急の課題と思うとともに、私にできることは何だろう…、と思いました。

日 時	訪 問 先	所 感
7月27日 (火)	サリアヤ町役場 アライカプワ女性農業協同組合 (村落開発普及員 濱田正章さん)	<p>女性農業協同組合では、生計向上事業（ココナツ加工等）と福祉事業（保育所運営等）を行っていました。濱田さんが来てから、組合の金融システムが確立し、会計管理ができるようになり、経営面が前進したそうです。日本人の活躍を誇りに思いました。</p> <p>幼稚園で出会ったシスターは、シュタイナー教育を積極的に進めていました。心を育てることを大切にしており、すごく共感できました。</p> <p>この村で出会った人たちは、みんな、自分の信念や人脈をもって活動しており、点が線、面になって前進していると感じました。</p>
7月27日 (火)	ルセナ市役所 社会福祉総合施設 (青少年活動 小寺麻衣さん)	<p>この施設では、様々な事情から家族と一緒に暮らせない子どもたちが、自立・更生のために生活していました。日本では考え難い状況でしたが、メリットとデメリットがある、と思いました。それと同時に、この国の福祉制度や施設内のシステム（カリキュラム）の更なる充実の必要性を感じました。また、すごく厳しい背景を背負っていても、無邪気な笑顔を見せる子どもたちに出会って、愛おしく思いました。この子どもたちが幸せに暮らせるためにも、貧困削減の緊急性を痛感しました。それと同時に、今までに受け持った、厳しい背景を背負った子どもたちの顔が次々と浮かびました。比較的裕福なのに、虐待や自殺者が増え続けている日本。真の幸せとは…と思いました。日本でも、心の教育や支援体制の確立の重要性を感じました。</p>
7月28日 (水)	トロイ財団 (自動車整備 伊藤貴明さん)	<p>ここでは、ストリートチルドレンや低所得家庭の子どもを対象に、基礎教育、職業訓練を行っていました。伊藤さんも、現地の方とのギャップに葛藤しながら、子どもたちのために、一生懸命活動を進めていました。伊藤さんの話を通して、フィリピン人や日本人のことが少し分かりました。それぞれの国民がもつ魅力的な部分を融合して高め合うことができたらいいな、と思いました。そして、国を変えるためには、ハード面(技術、施設など)とソフト面(人)の両方の向上が重要だな、と思いました。</p>
7月28日 (水)	JICA フィリピン事務所 (産業貿易省 投資促進アドバイザー 大島専門家)	<p>フィリピンでは、産業の高度化や多様化が進んでいない上に、第二次・第三次産業がモノカルチャーな構造（電子製品やBPOがそれぞれの輸出額の約6割）になっています。そのため、フィリピンにおける海外直接投資は、国内産業の多様化・重層化や雇用の創出、経済発展に貢献するという点で、とても重要であるということが分かりました。政治・経済は苦手な分野</p>

日 時	訪 問 先	所 感
		<p>でしたが、知ることで、今後の自分の関わり方を考えることができました。共に生きていく上で、相手のことを知ることは大事な、と思いました。</p>
<p>7月29日 (木)</p>	<p>ソルトパヤタス</p>	<p>青い空の下、赤い花が咲き、黄色いチョウがひらひら舞っています。一見、平和な感じですが、後ろにはスモークマウンテンがあり、そこで厳しい生活を送っている人々がたくさんいます。しかし、そこには生き生きと学習したり、笑顔で遊んだりしている子どもたちがいました。その光景は、想像以上でした。現地で暮らす方々の話から、私は、本当の幸せは、やはり心の安定、家族とのつながりなのかな、と思いました。また、改めて、食べ物や家があること、インフラや教育が充実していること、学校に行けること等がどんなに有り難いことか、痛感しました。しかし、中には、顔の表情を変えずに「今」を生きるので精一杯という人もいました。働く子どもたちもいました。貧困層の中でも、貧富の差があったのです。私は、同じ空の下なのに、この貧富の差を目の当たりにして、涙がでてきました。世界中のみんなが平和に笑顔で暮らすために、この貧困を無くしたい、と心から思いました。それと同時に、当たり前のことにもっと感謝しなきゃいけない、と思いました。</p>
		<p>JOCVの三人(濱田さんや小寺さん、伊藤さん)やソルトパヤタスの小川さんたちは、バイタリティがあふれ、キラキラしていました。みんな、現地の方々との思いのズレに葛藤を抱えながらも、柔軟性をもち、相手を尊重しながら、今、ここでできることを一生懸命していました。そして、その結果、人間関係や信頼関係を築き、状況を前進させてきていました。その姿に、大きな勇気をもらいました。特に、長い年月をかけて、自他の可能性を信じて関わり続け、現地の方々の自助努力による活性化までつなげていた小川さんの人間性に、強く心を打たれました。自分自身の生き方を振り返るきっかけになりました。</p> <p>また、小川さんをはじめ、みんな、笑顔に満ちあふれていたが、その源は、愛情やつながりによる安心感が大きいと思いました。人は一人では生きていけないのです。愛情を分かち合い、人とつながることの大切さを感じました。また、現地で活躍する日本人の方々と接して、相手を尊重して誠実に向き合う姿勢、努力の積み重ねが、相手を変えるし、自分自身を成長させていくのだな…と思いました。人として、大切な姿勢を学ぶことができました。私も、今、ここでできることをこつこつとしていきたいと思います。</p>
<p>7月29日 (木)</p>	<p>ショッピングモール</p>	<p>メトロ・マニラには、企業やショッピングモールの高層ビルが立ち並んでいました。それは、先進国と同レベルで、スーパーには、たくさんの商品が並んでいたし、人々の来ている服も豪華でした。交通量やビルの警備も多かったです。同じマニラ内なのに、なぜ…と、貧富の格差を感じました。</p>

日 時	訪 問 先	所 感
7月30日 (金)	マニラ市貧困層における薬物依存社に対する回復支援推進事業現場視察	<p>貧困がゆえに薬物に手を出し、職や家族を失い、更なる貧困に陥るという現状があることを知り、貧困が及ぼす大きな影響を知りました。そして、その悪循環を断ち切るために、APARIや現地の方々が、組織を立ち上げ、一緒に回復支援事業に取り組んでいる姿を見て、やはり現状を変えるためには、同じ志の人が連携・協力して、チームとなって、あきらめずに努力し続けることが大切だと思いました。</p>
7月30日 (金)	フィリピン国家警察銃器対策能力向上プロジェクト現場視察	<p>犯罪と貧困が密接に関連しているということを知り、貧困を根底から解消することの必要性を感じました。また、ここでも日本人が、治安維持のために、技術を伝えたり、組織を作ったり、地域と協力したりしていました。フィリピンが、自分たちの力でよりよい社会を創っていけるような関わりをしている様子から、国際協力における大切な姿勢を学ぶことができました。</p>

派遣国	フィリピン
学校名	飯塚市立庄内中学校
担当教科	英語科
氏名	山尾 智子

1 今回の研修参加に際して、特に主眼をおいた点

- (ア) 日本とフィリピンそれぞれが抱える貧困問題について幅広く知見を広めること
- (イ) フィリピンの青年海外協力隊の皆さんとの交流と活動現場の視察
- (ウ) フィリピンにおける教育現場の現状を知ること

2 視察を通して参考になったこと／疑問に思ったこと

(ア) 参考になったこと

- ① 「豊かな国ニッポン」は自殺が多いが、フィリピンでは笑顔の人が多く、人生を自分らしく生きる意味が違うと感じました。一般的に日本人にとっては、将来のことを考えて仕事をして、預貯金を計画的にしていくのが良い人生だが、国が変わればそうではありません。フィリピンの人たちはその日を一生懸命に生きて、何よりも家族との時間や家族の幸せを大切にしている、日本人とは違う価値観で生きていると思いました。
- ② 富裕層と貧困層の生活の違いを肌で感じることができました。高層ビルが立ち並ぶメトロ・マニラの中心部から少し離れただけで、線路ぎりぎりに立っているバラックの住居や露店がたくさん並んでいました。
- ③ JICA 九州国際センターでの事前研修や JICA フィリピン事務所での概要説明・懇談を通して、JICA の事業内容がよく分かりました。
- ④ 年齢も教職経験もバラバラのツアーメンバーでの研修でした。考え方も様々で毎晩の意見交流では、1つのことについて色々な意見を聞くことができ面白かったです。

(イ) 疑問に思ったこと

- ① 日本をはじめと諸外国から様々な援助を受けていますが、そのことについてフィリピンの一般の人たちがどのくらい認識しているのか知りたいと思います。
- ② 日本は支援・援助をする側だが、「寄付に慣れている」「寄付に頼りすぎている」国が多いという現実を、日本の国民がどう考えるか今後勉強していきたいと思います。
- ③ 日本にも諸問題があるのに、なぜ海外への支援が大切なのか、自分なりの答えがまだ出ていません。

3 教育指導への活用について

- ・ フィリピンについて知る、フィリピンと日本の関係について知る。(学活、総合)
- ・ 「貧困」「格差」とは？(学活、総合)
- ・ 国際協力にについて考える。(道徳)
- ・ なんのために「学ぶ」のか？(道徳)
- ・ 世界で活躍する日本人(道徳)

4 研修に関する全般的な所感／意見について

- ・ 事前学習では JICA の事業説明から研修の細かい内容まで様々な説明があり、2日間では消化しきれないくらいのプログラムでした。どのプログラムも内容が濃く自己啓発の意味でもとても勉強になりました。その分野に精通した専門家ばかりで、私たち参加者の質問にも的確に答えてくださり、「学ぶ楽しさ」を久々に味わいました。
- ・ 事前学習で聞いた北九州ホームレス支援機構の方のお話には涙が止まりませんでした。支援機構の名前は聞いたことがあったものの、今日の活動に至るまでの様々な苦労や、ホーム&ハウスの人たちのことを知る機会をもたなかった自分を恥ずかしく思いました。
- ・ どこに行っても笑顔でたくさんの国だった。ホテルのスタッフもまたフィリピンに来るときは寄ってね、と言ってくれました。いわゆる営業スマイルではなく、心からの笑顔に癒された1週間でした。私は自然な笑顔がかえって不自然になります。ほかの人をホッとさせる笑顔の持ち主になろうと思いました。

5 JICA に対する要望・提言

- ・ JICA のプログラムに参加したことのある教職のネットワーク員を活用して、幅広くこのスタディツアーを周知してもらいたいです。
- ・ 宿泊費が自費なので、不公平にならないよう配慮していただきたいと思います。
- ・ 国際センターでたくさんの資料が準備されていたので、書籍についてはリストが欲しいと思います。
- ・ 滞在中は、夜の短い時間しか自分の考えをまとめたり1日を振り返ったりする時がありませんでした。日程をあと数日間のばしてでも、現地で湧いた質問・課題を解決する場と時間の設定があったほうが良かったと思います。
- ・ 授業で活用できるものを購入したり探したりしたいと考えていましたが、デパートでの買い物以外のチャンスがあまりなかったのが残念でした。お土産を買う時間と併せて、地元の人が行くようなスーパーとか本や文房具や子ども用品があるお店に行くことも検討していただけたらと思います。

6 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・ 訪問国や訪問先について、時間が許す限り個人で調べていくことをおすすめします。
- ・ ともしれば気が大きくなったりルーズになったりすることもあります。海外とは言っても日本人としてアイデンティティを忘れずに自覚ある行動をしましょう。

7 各訪問先の所感

日 時	訪 問 先	所 感
7月25日 (日)	福 岡 発 マニラ 着	<p>夏休みということもあり、母子連れのフィリピン行き（帰り）が多くいました。</p> <p>空港からホテルまで小1時間ほどでした。渋滞もさることながら、信号待ちの車に近寄って物品販売に来る少年少女に姿が衝撃的でした。車の往来が激しい幹線道路なのに、危険を冒してまでお金を稼ぐ姿は日本の子どもの姿とはあまりにもかけ離れていると思いました。</p>
7月26日 (月)	・ JICA フィリピン事務所	<p>対フィリピンの JICA 協力の3本柱と、ツアーで視察する各施設と JICA のつながりについてよくわかりました。日本からとても近い国の1つなのに、今までほとんど関心がなく何も知らなかった自分の勉強不足を痛感しました。</p> <p>JICA 現地人スタッフの方々がプレゼンテーションして説明があったが、自分の仕事にとっても誇りを持って力を注いでいるように感じました。</p>
7月27日 (火)	・ ケソン州サリアヤ町役場 アライカプア女性農業協 同組合 JOCV 濱田正章さん ・ ケソン州ルセナ市役所 社会福祉総合施設 JOCV 小寺麻衣さん	<p>濱田さんが活動しているところではシスターとの関係が大変そうでした。海外で楽しみながら活動している姿が印象的でした。女性リーダーの強い信念がよく伝わってきました。「日本はどうかの？」と質問されて、あいまいにしか答えられなかったことが残念でした。自分の意見をはっきりと伝えることで相手との相互理解がより進んでいくと思います。</p> <p>ルセナ市の施設では、市の予算が足りないなどの理由で、さまざまな福祉サービスが1ヵ所で行われていることに驚きました。虐待を受けた子ども・犯罪者・お年寄りが同じ敷地にいるなんて考えられないと思いました。</p> <p>小寺さんも濱田さんと同じように試行行錯誤の2年間だったのだろうと感じました。</p>

日 時	訪 問 先	所 感
7月28日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ トロイ財団 JOCV 伊藤貴明さん ・ JICA フィリピン事務所 投資促進アドバイザー 大島 JICA 専門家 	<p>どの JOCV の話にも「寄付に頼りすぎている。」「寄付してもらうことに慣れている。」という話が出てきました。今までは、私には時間もなく体力もなく、自分が直接出向いてボランティアできないから、せめて寄付くらいは…という考えがあったが、一方通行的な考え方だったと思い知らされました。じゃあ何ができる？寄付は悪いこと？と問われても答えはすぐには出ないと思います。</p> <p>大島さんのような立場の人がいることを初めて知りました。国際経済とか興味がなく私には無縁のようなもとを考えていたが、見方が変わりより深く知りたくなりました。</p>
7月29日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソルトパヤタス ・ SMデパート視察 	<p>衛生状態が悪く、ゴミ山のすぐ近くで暮らしている人々の生活を目の当たりにしました。ガイドの中村さんによると、3年ほど前と今現在のスタッフの顔つきが違うということでした。ソルトの運営に携わっているうちに気持ちも変わってきたのでしょうか。ソルトに活動に誇りをもってやっている様子でした。</p> <p>代表の小川さんの生き方は到底まねできないが、彼女との出会いに感謝します。</p>
7月30日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファミリウェルネスセンター（マニラ市貧困層における薬物依存者に対する回復支援推進事業） ・ フィリピン国家警察（PNP） JICA 専門家 	<p>DARK の活動では日本の新聞でも目にしたことがあります。貧困のために麻薬に手を出すという状況が日本と全く違うと思います。空腹を忘れるために薬物に手を出すなんて悲しすぎる現実です。</p> <p>PNP ではフィリピンの犯罪と貧困のつながりがなんとなくわかりました。治安維持・捜査技術の指導・貧困解消などのために働いている専門家に会うことができ、さまざまな分野で働いている日本人の姿にパワーをもらいました。</p>
7月31日 (土)	マニラ発 福 岡着	保安検査場で賄賂を要求している現場に遭遇しました。最後まで驚きがいっぱいでした。